



事業部会

企業と環境⑭ コープこうべの挑戦 後編 社会を変える一歩に

今回は、前回に引き続いてコープこうべの環境に配慮した取組みについてご紹介します。

昨今、少子高齢化や地方の過疎化が進み、日本中で耕作放棄地が増加しています。これに伴って猪や鹿等の野生動物による農林業の被害が増え、美しい田園風景は失われ、地域の活力は減退し、農業や伝統行事を続けられなくなってきています。そんな地域のひとつである大阪府豊能郡豊能町の牧地区でコープこうべと大阪府、豊能町、牧農空間活性化協議会の挑戦が始まりました。



2015年12月にスタートした、「みんなの牧・里プロジェクト」です。

一度は耕作放棄地になった段々畑を再度開墾し、整備された3,800㎡の農地。ここを舞台に、同社は組合員の方々と共に現地を訪れ、季節ごとに野菜の苗や種を植え、自分で植えた野菜を育てて収穫するという企画を始めました。

手間のかかる作業は農業関係者に任せ、収穫期だけ人を集めるようなお手軽農業体験イベントは珍しくありませんが、この企画の素晴らしいところは、

地域の方々による助言や補助は敢えて程々に抑えて、野菜の世話を参加者の自主性に任せた点にあります。箕面グリーンロードを使えば豊中から車で一時間かからない立地と相まって、本格的に食と環境の学習や野菜作りをしたい層を呼び込むことに成功。親子連れを中心に2016年は約100人が参加し、試行錯誤しながら野菜を育てる喜びや収穫の楽しさを満喫しています。

収穫した野菜は参加者で持ち帰りますが、昨年は馬鈴薯と玉ねぎが豊作だったため、余剰分をフードバンク関西に送って、福祉団体や母子家庭の支援に役立ててもらおうという、共助的な広がりも見せています。

「買い物かごから社会を変える」というのをモットーとするコープこうべ大阪北地区本部の森畑さんは、この企画を通して「消費者はお金を支払うことで、商品を購入すると同時に、そのサービスの在り方を支持することができる。そして実際に行動することで、社会の在り方は変えていける」ということを参加者に考えるきっかけにして欲しいと熱く語っておられました。

(中村崇之)

はじめまして 山本直子です

2017年5月より、常勤職員として仲間入りさせて頂きました。豊中で生まれ育ち、現在も豊中で、2人の男の子(4才、1才)を育てながら暮らしています。学生時代の海外ボランティアの経験から、「地球環境を守るために、自分は何ができるだろうか」と問題意識を持っていました。これまでは、一般企業の人事部や教育系NPOに勤務し、学校現場や地域、事業所をつなぎながら、青少年の育成に関する仕事をしてきましたが、子育てをする中で、「緑あふれる自然環境を子どもたち、次世代に残し

ていきたい、安心安全な食事を心がけたい」との思いを以前よりも強く持つようになりました。このご縁に感謝し、子育て世代の視点を活かして貢献していきます。地元豊中で、身近な自然に関する学習会や生活者の視点を活かした様々な企画で熱心に活動されている皆さまと一緒に活動できることを楽しみにしております。センターにお越しの際には、お気軽にお声がけ頂ければ嬉しいです。どうぞよろしくお願い致します。

